

平成21年度全学共通科目
「情報探索入門」第1回
(2009年4月10日)

図書館情報、および図書館の種類と その機能

京都大学附属図書館研究開発室
准教授 古賀 崇

1

本日の内容

- 図書館とはどのようなところか
 - 書店などとの違いから
 - 大学図書館としての特色: 資料の面などから
- インターネット上の情報と図書館の資料との違い
 - OPACと検索エンジンの違いも含めて
- 本科目の内容
 - 図書館職員からの事務連絡も

2

この科目の目的

- 「京大の図書館で何ができるか」を身につけてもらう
- 実際に図書館のしくみを体感する(演習を通じて)
- レポート・論文の執筆に必要な技能とルールを習得する

3

そもそも、図書館とは何か？

4

皆さんはどこで本と接してますか？



5

書店(新刊書店)、コンビニ



6

大学生協内の書店



7

書店(セレクトショップ的なもの)



8

出所: http://pds.exblog.jp/pds/1/200809/30/05/c0141005_10491288.jpg

古書店・新古書店



9

オンライン書店



10

出所: <http://www.amazon.co.jp/>
<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>

図書館



京都府立図書館
 (岡崎公園内、
 国立近代美術館となり)



11

図書館へのイメージ...



12

「図書館の自由」を求める戦争!?

- 有川浩の『図書館戦争』シリーズ
(アニメ版サイト:<http://www.toshokan-sensou.com/>)



13

出所: http://ec3.images-amazon.com/images/I/51HB9Y6NS2L_SS500.jpg
http://ec3.images-amazon.com/images/I/519YHANFTAL_SS500.jpg

図書館のことを学ぼう!

- 井上真琴.(同志社大学)
図書館に訊け!.
筑摩書房, 2004, 253p.
(ちくま新書, 486)



14

出所: http://ecx.images-amazon.com/images/I/41VC6KSRJL_SL500_AA240.jpg

図書館のことを学ぼう! (続き)

- 高田高史.(神奈川県立図書館)
図書館が教えてくれた発想法.
柏書房, 2007, 253p.



15

出所: http://ec3.images-amazon.com/images/I/51U1y4iOsfL_SL500_AA240.jpg

新刊書店・古書店・図書館の特徴 (『図書館に訊け!』p. 32より)

- 新刊書店
 - 新刊の本を扱う
 - 店頭スペースに置くことができる本のみ(短期間で返品される)
 - 非流通本(通常の出版流通ルートに乗らない本)は扱わない
- 古書店
 - 絶版の「古書」も、流通する「古本」も扱う
 - 非流通本も扱う
 - 常に商品在庫がある保証はない

16

新刊書店・古書店・図書館の特徴 (続き)

- 図書館
 - 過去受け入れた本は長期間保存している
 - 流通本も、非流通本も扱う
 - 目録と排架(本の並べ方)が組織化されている
 - 最新刊の提供に時間がかかる
 - 図書館に本を置くための「装備」(カバーやバーコードなどの貼り付け)などのため

17

図書館の種類(館種)ごとの違い (『図書館に訊け!』p. 41より。一部付記)

- 公共図書館: 地域住民の興味や要求にじかに応えるための図書館
- 学校図書館: 小・中・高校の生徒を対象にした、学習と人格形成のための図書館
- 専門図書館: 企業や研究機関に付属し、特定領域に絞った資料を扱う
- 国立国会図書館: 国内の刊行物を網羅的に受入。基本的に国会に対する援助が任務
 - 長尾真・元京大総長(工学部名誉教授)が現館長
 - 関西館(京都府精華町): 科学技術関係資料、アジア関係資料の収集に力点。電子サービスの拠点でもある

18

専門図書館の例： 京都国際マンガミュージアム

- マンガの専門図書館・博物館(展示、企画、研究が盛ん)
- 入場は有料 ・ 烏丸御池駅そば



19

図書館の種類(館種)ごとの違い(続き)

- **大学図書館:大学の教育・研究を支援するための図書館**
 - 大学での教育・研究内容を反映した資料
 - 大学の枠を超えた、図書館間の相互利用が盛ん



附属図書館



人環・総人図書館

20

大学図書館の資料と その他の情報源

21

大学図書館の資料の特徴

- 学術書、専門書が中心
 - 勉強を進めないと読み通せないものが多い
 - 生活のための実用書、趣味の本は少ない
 - 近くの公共図書館で探しましょう
- 幅広い範囲の資料を扱う
 - 形態面、主題(テーマ)面、言語面
- 電子的・ネットワーク上の資料が多い
 - 通常のインターネット利用ではアクセスできない

22

図書(学術書)



23

書店にない本・資料

- 研究報告書(右写真)
- 自治体史・社史
 - さまざまな自治体や会社の歴史を示す
- 展覧会カタログ
- 古文書類(一部の学部図書館・室で)



24

貴重書

- 京大の図書館にあるものは...
 - 国宝: 今昔物語集 鈴鹿本
 - 重要文化財: 紙本墨書 万葉集、古今集注 ほか
 - 絵巻物・奈良絵本コレクション
 - 古地図コレクション: 伊能忠敬地図ほか
 - イタリア史誌、ペルシャ語イラン文献資料集成、ワイマール共和国時代の文献コレクション(オリジナル版)

等々...

25

貴重書の利用はネットでも



京都大学電子図書館 貴重資料画像

<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

26

雑誌

- 学術雑誌は一般の雑誌とは異なる！
 - 研究の成果を示す
 - 同じ分野の研究者から、内容にチェック(審査、査読)が入る
 - 「バックナンバー(過去の分)」の価値が大きい
 - 「電子ジャーナル」への移行が進む
 - 多くは一般書店では入手できない



27

学術雑誌の中の論文の重要性

- 最新の研究成果が論文として現れる
 - 図書に比べると
- 引用されることの多い論文が重要とされる
- 雑誌の中の論文をいかに探し出すか、が大事なスキル



28

新聞

- これも大学図書館では過去の分が多く利用できるようになっている
 - 縮刷版(右写真)
 - データベース
 - マイクロ資料



29

マイクロ資料とは？

- 「撮影用フィルム」の形態をとり、本・新聞や文書の内容を縮小して複製
 - 主に新聞や雑誌のバックナンバーに用いられる
- 専用の「リーダープリンター」を用いて閲覧・プリントアウト
- ○ = 長期保存とスペース縮小 × = 利便性
- かつては重要な資料のひとつだったが、1990年代より減少
- しかしマイクロ資料の形態でしか存在しないものもあり、学問領域によっては大いにお世話になるかも...

30

主なマイクロ資料の形態



マイクロフィルム
(巻物状)



マイクロフィッシュ
(平面状)

31

リーダープリンター (フィルム・フィッシュ両方に対応)



32

電子ジャーナル・データベース

- ほとんどは大学が多額の費用を支払って契約している
 - 「商品」であるゆえ、提供・販売する会社が内容に責任をもつ → インターネット上の無料の情報源との大きな違い
- 京大の学生・院生・教職員は、情報環境機構が発行する「ECS-ID」の取得がこれらの利用に必要
 - 「リモートアクセス」の設定により、学外からの利用も可能: 詳しくは図書館機構ウェブサイトのトップページから「学外からアクセス」を参照

33

さまざまなデータベース

- 新聞記事データベース
- 百科事典データベース
- 論文検索データベース
 - 論文の引用状況が把握できるものも
- 法律・判例データベース
- 統計データベース
- 特許データベース
 - 特許とは: 国により認定された発明や新技術

など....

34

電子ジャーナル



35

「京都大学図書館機構」のサイト データベース・電子ジャーナルもここが窓口



<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

36

情報を探すための、図書館におけるしくみ

• 分類

- 多くの公共・学校図書館、京大の学部・研究所等の図書館・室(一部)は「日本十進分類法」を採用: 数字の組み合わせ
- 京大附属図書館は国立国会図書館の分類法を採用: アルファベットと数字の組み合わせ
- 書棚での本の並べ方に反映される

• OPAC (Online Public Access Catalog、オンライン(公開)目録)

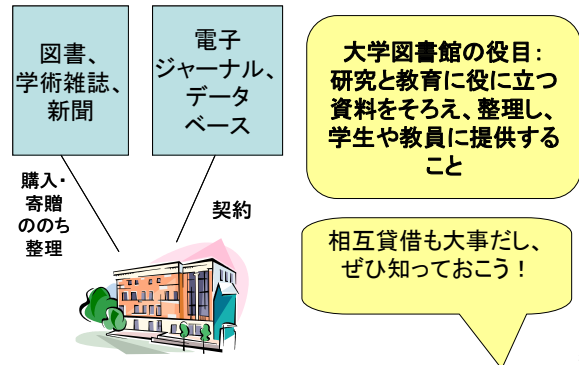
- 図書館での資料のありかを調べるデータベース
- 京大では「**KULINE**」

• 参考資料(図書、データベース)

- 「調べもの」のための資料
- 辞書、事典、文献目録など

37

これらをひっくるめて...



38

WebcatとWebcatPlus

- Webcat
 - シンプルなユーザーフェイスで、根強い利用がある
 - <http://webcat.nii.ac.jp>
 - WebcatPlus
 - 「連想検索」として、特定のテーマに関係しそうな本の検索が可能
 - <http://webcatplus.nii.ac.jp>
 - いずれも「どの図書館がどの本を持っているか」の検索が可能
 - 日本国内の大学図書館(一部、大規模な公共図書館も含む)の目録データを集約
- ここから相互利用に進むことができる
- 他館からの図書の貸借、論文等のコピー提供

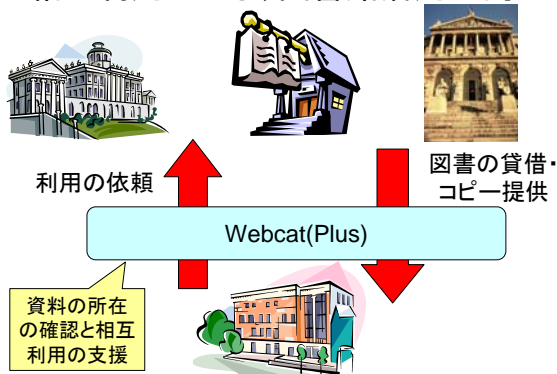
39

図書館間の相互利用の重要性

- 研究者としては「草の根をかき分けてでも資料を見たい」
- しかし個々の図書館では財源やスペースの都合で、所蔵できる資料に限りがある
- ↓
- 相互利用を通じて、総体として幅広い資料が活用できるようにする
- Webcat(Plus)で見つからない資料も、図書館のカウンターで手続きを行えば利用可能な場合も
- 他大学の図書館に直接来館して利用するのも可能: ただし学内図書館のカウンターに依頼し「紹介状」を発行してもらうこと

40

相互利用による、図書館活用の向上



41

インターネット上の情報と図書館の資料との違い

42

「ググる」時代、「Wikipedia」で調べる時代...



43

インターネット上の情報の種類

- (1) 従来、コンテンツに価値があるとして、(商品として) 有料で提供されていた情報
- (2) 従来、流通コストをカバーするために、有料で提供されていた情報
- (3) 従来、メーカーや販売店がコストを負担することで、無料で提供されていた情報
- (4) 広告を見せるための「番組」としての情報
- (5) 自己表現欲求の発露の結果生まれた情報
- (6) 特殊な情報要求に対する教え合いの結果生まれた情報

→ どれに信頼性があるか？

出典: 高嶽裕樹, デジタル情報資源の検索, 増訂第2版, 京都大学図書館情報学研究会, 2009, 96p. 特に巻末の「増補 インターネットにはどのような情報が存在するか」(p. 85-93.)

44

インターネットでアクセスできるが(商品として)「タダでは見られない」情報

- 大半の電子ジャーナル
- 大半のデータベース
- 京大の学生・院生・教職員として、学内で(また「リモートアクセス」利用で学外から)あたかも無料のようにアクセスしている情報だが...
→ 実際には大学がこれらと契約し、多額の代金を払っている!
- また、図書館と情報環境機構が、電子ジャーナル・データベースへのアクセスのしくみを整備している

45

無料でアクセスでき、かつ信頼できる情報

- 前述の「(2)従来、流通コストをカバーするために、有料で提供されていた情報」= 営利を目的とせず提供される情報
- 国、自治体など公的機関、また大学・研究機関や非営利組織などが発信
- 特に公的機関は税金を使って様々な情報を作成しており、国民・住民に還元することが求められる
- 具体例: 統計データベース、特許データベース、法律データベース、図書館のOPAC(ネット上のもの) など...

46

図書館の資料とインターネット上の無料情報の比較

図書館の資料

商品として「品質保証」が求められる

→ 信頼性が相対的に高い

最新の情報に対応できない

場合がある

→ 有料のデータベースはその点もカバー

データベースを除き、たいいの情報は固定化される
= 安定している

インターネット上の無料情報

情報の性質により、信頼性はまちまち→利用者として、信頼性を見極める必要性が高い

図書館の資料や従来の図書・雑誌等でカバーされなかった情報を、タイムリーに発信する場合がある

何の前触れもなく、内容が変更・削除されたり、サイト自体が消滅してしまうことがある

ネット上の情報を「とっかかり」としつつ、図書館の資料で「表を取る」(真偽を検証する)のが、賢い調べ方

47

OPACによる資料検索とGoogleほか「検索エンジン」による情報検索との違い

48

図書館の資料は「目に見える」

- 館内を歩けば、どのような資料があるか把握できる
 - 特に「分類に従って整理された本の並び」に注意
- 館の特性に応じ、資料の特色が出る
 - 大学では「教育・研究の役に立つ」資料を図書館が選択
 - 1館で収まらない分は学内の分担や相互利用でカバー



49

OPACの役割

- 図書館資料を探すためのさまざまな手がかりを用意
 - この手がかりもまた「整理」されている！
 - 書名、著者名、出版者、出版年、件名(資料のテーマ)
 - 検索結果としての資料のデータ(書誌データ)も整理されている
- 検索条件を細かく設定することが可能
- 検索結果が分かりやすい
- 「まとまった」「目に見える」図書館資料を、より効率的に探す手段
 - 整理された書棚を眺めつつ、欲しい情報を探す(ブラウジング)のとセットで！

50

京大のOPAC=KULINE

(Kyoto University Libraries Information Network system)

- 詳しくは第5・6回目の授業で...

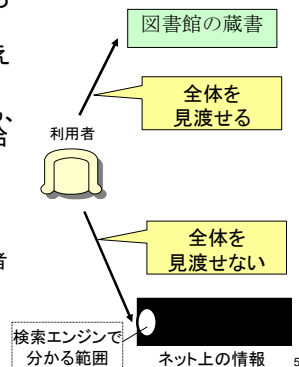


<https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

51

ネット上の情報は「目に見えない」

- 「無限」「何でもあり」ではあるが、整理されていない
- 内容が突然「変わる」「消える」ことがある(前述)
- 検索エンジンによる結果も、ネット上の情報の一部を拾い上げているに過ぎない
 - キーワードに引っかかったウェブページが検索結果に表示される
 - OPACと違い、「書名」「著者名」といった整理もない
 - 検索結果の並び方は正当か？



52

「検索の罫」に気をつけよ！

- 最初に見つけた情報から過度に影響を受ける
- 無意識のうちに自分の既成概念を支持するデータを探し、それを覆す証拠は避ける
- 最近の出来事、劇的な出来事から強い影響を受ける
- 繰り返し同じ情報を得ると、それを信用しきってしまう
- 現状維持に役立つことを受け入れやすい
- これまでの選択を正当化する(過ちを認めない)

出典: Morville, Peter. アンビエント・ファインダビリティ. 浅野紀子訳, オライリー・ジャパン, 2006, p. 205-206. / 太田光, 田中裕二, 高野明彦. 検索エンジンは脳の夢を見る 連想情報学. 講談社, 2008, p. 82. (爆笑問題のニッポンの教養)

53

両者の比較

OPACでの検索

「どの範囲の情報(図書、雑誌)を検索できるか」は、あらかじめ定まっている

個々のことばがもつ要素(書名、著者名、主題など)も意識して検索を行う

検索結果となる本は、図書館の書棚に行けば確実に見つかる(「貸出中」の場合もあるが...)

検索エンジンでの検索

ネット上にある情報はどれも検索対象になるように見える

キーワードに引っかかるウェブページを検索結果に表示するのみ

検索結果で表示されるウェブページが、長期的に安定して存在する保証はない

54

「情報探索入門」で これから行う内容

55

- 次回: 卒業研究の例(ビデオ鑑賞)を通じて、図書館の資料の性質や使い方を学ぶ(講義)
- 第3回以降: 図書館の「使いこなし方」を、段階を踏んで学んでいく(講義と演習)
 - 分類
 - 目録
 - 参考資料
 - インターネット上の情報源
 - データベース
- 最終回: 総合演習として「参考文献リスト」を作成してもらう

56

参考文献『大学生と「情報の活用」』について



学内からのみ、ネット上での閲覧が可能
http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/jt_index.html

57

図書館職員からの事務連絡

58